



大和小だより

令和6年度版

学校便り 第10号

令和6年11月15日

文責 校長 ○○ ○○

◇楽しい「どんぐり工作」

今年も学校運営協議会委員である○○○○さんと、長寿会長である○○○○さんを講師として、1年生が「どんぐり工作」を行いました。お二方は、1年生のために事前にどんぐりを拾い集め、材料も用意して、楽しい工作教室を行ってくださいました。1年生も指導を受けながら自分なりに工夫して「やじろべえ」や「こま」「キーホルダー」などを作りあげ、とてもいい笑顔で遊んだり、飾ったりしていました。ここ数年行っていただいている学習で、学校としてはとても有り難く思っています。

この学習だけでなく、本校では多くの学習に地域の方々の力をお借りし、教育活動を展開しています。その学習の成果を発表する機会として、11月29日「学習成果発表会」を予定しています。発表会には、保護者はもちろん、地域学習でお世話になった方々も招待しますので、多くの方にご来校いただき、子どもたちの学習の成果をご覧くださいただければと思います。



◇力を見せた「東山梨音楽発表会」

今年の大和小の発表は午前中の1番目ということで、子どもたちは開会行事が行われているときは、すでに緞帳裏でスタンバイをしていました。幕が開くまで静かに待っている間の緊張はかなり大きかったと思いますが、演奏が始まってからの子どもたちの集中は素晴らしく、リズムも見事に合っており、10分間という時間があっという間に感じるほどの見事な演奏でした。多くの学校が集まり、少しざわついていた会場も大和小の太鼓の演奏が始まると水を打ったように静かになり、みんなが演奏に圧倒されていました。演奏終了後には、他校の校長先生方から、「今年の大和小は一段と素晴らしかったですね」、「太鼓の演奏に引き込まれましたよ」などの嬉しいコメントをいただきました。伝統の太鼓！今年もしっかりと引き継ぐことができます！！



◇「甲府支援学校児童地域校交流」および「料理教室」

甲府支援学校の地域校との交流事業として、本校の○○○○さんの姉である○○さんが来校し、4・5・6年生と交流をしました。朝登校したときは少し緊張気味でしたが、すぐに打ち解け楽しく活動することができていました。2校時には、「音楽発表会」のビデオを見た後、5・6年生と一緒に簡単な太鼓演奏にチャレンジしました。リズムを教わりながら、最後は自

分の力でみんなと合わせて演奏することができたようです。

また、午後からは、大和食育改善推進委員の皆さんが来校して下さい、「料理教室」が行われました。お弁当と味噌汁を作るということで、会の皆さんの指導の下、5・6年生と一緒にお弁当作りを行うこともできました。

5・6年生の迎え入れる姿勢も素晴らしく、〇〇さんは1日楽しく過ごす事ができたようで、帰りにはとびきりの笑顔で、みんなと別れを惜しんでいました。5・6年生も事前に支援学校とのやりとりや迎え入れるにあたっての試行錯誤もあったようで、共生社会の実現に向けて、お互いに学びの多い交流会となりました。



◇芸術の秋「芸術鑑賞教室」

秋は、芸術の秋とも言われます。勝沼中学校区の小学校でも10月29日に「芸術鑑賞教室」を行いました。本校児童は、祝小学校の児童と一緒に宮沢賢治作「銀河鉄道の夜」の演劇を鑑賞しました。低学年生には少し難しい内容でしたが、高学年生は帰りのバスの中で、「あの場面でちょっとそうかなと思ったんだよね」とか「つまり、こういうことでしょ」などと演劇に関する感想や思いを語り合っていました。また、後日図書室から「銀河鉄道の夜」の本を借りて読んでいる子もいました。生の演劇を見る経験は貴重であり、そこから自分の世界が広がった子もたくさんいたようです。



◇力を出し切った「マラソン大会」

11月3日にマラソン大会を実施しました。前日の雨とは打って変わり、清々しい青天の中、子どもたちは練習の成果を存分に発揮し、参加した全員が見事に完走することができました。諦めずに最後まで走りきった子どもたちに拍手を送りたいと思います。

安全にマラソン大会を実施できたのは、大会に向けての家庭での健康管理と、当日の多くの保護者ボランティアによる見守りのお陰であると感謝しております。また、先頭と最後尾を走っていただいたお父さん方や走る事に心配のある子について一緒に走っていただいた方々、本物のマラソンのようにバイクで先導して下さった警察の〇〇さん、そして、応援しながら併走してくれた中学生の皆さん等々、多くの方々のご協力にも感謝申し上げます。

大会終了後、何人かの児童の涙を見ました。思ったような記録が出せなかったことへの悔し涙でした。真剣に取り組んできたからこそその涙であり、子どもたちの熱い思いに感動しました。一人ひとりがそれぞれに思いを持って走りきったマラソン大会でした。安全に事故なく走りきることが一番ではありますが、子どもたちのやる気や熱い思いも大事に育てていきたいと改めて思いました。

